

設定時間、設定場面、設定状況。体験的、実践的な避難訓練にするための改善の視点

授業中に緊急地震速報が鳴動し、児童・生徒は即座に避難行動を取る。その直後に大地震が発生、停電のため放送設備が使用不能となる。拡声器等の指示により校庭への避難開始。救護班は、負傷者発生との情報を入手し、教室に救助に向かう。校庭に集合後、津波警報が発令、体育館への二次避難を開始する。

【A-U】授業中(普通教室・特別教室・体育館・運動場・プール等) 【B-A】管理職(校長)不在

1 時間・場所等

午前10時20分、授業中に発災。児童・生徒は、各教室等から一旦校庭に避難するが、津波警報発令に伴い、体育館に避難する設定(20分間)

2 避難訓練の時系列及び児童・生徒及び教職員の動き

| 時間等 | 設定状況等 | 児童・生徒の動き | 教職員の動き |
|--------|---|--|--|
| 10時20分 | ● 緊急地震速報鳴動 | ● 身の安全を図る。(机の下に避難等) (各教室の状況に合わせた危険回避行動) ● 教職員の指示に従う。 ● 防災頭巾等の着用 | ● 身の安全を図らせる。 (危険回避行動の指示、教職員も同様に行う。ヘルメット等の着用) ● 児童・生徒、教職員、来校者等に対して避難行動を取るよう指示(校内放送) ● 窓・ドアを開けカーテンを閉める。 |
| 10時21分 | ● 大地震発生 | ● 身の安全を図る。 ● 机の下に潜り静かにする。 | ● 身の安全を図る。 ● 児童・生徒を落ち付かせる。 |
| 10時26分 | ● 大きな揺れが収まる。 停電になる 放送使用不可 負傷者の発生 | ● 負傷者の有無の確認 ● 教職員の指示に従う。 (放送設備の使用不可) ● □年□組1名が、教室で割れたガラスで切創 | ● 負傷の有無の確認 ● 放送設備使用不可 ● 拡声器の活用 (避難場所、ルートを確認に伝える。) ● □組担任…負傷した児童・生徒の保護 |
| 10時28分 | ● 校庭への避難開始 | ● 教員の指示に従い、校庭へ避難開始(「おかしも」の約束) | ● 「おかしも」の約束を守らせ、避難開始(二次災害に対する情報収集) ● 隣接する2学級を避難誘導 ● 本部設営及び指揮 ○ 負傷者の報告 ○ 救護班一負傷者の応急手当 |
| 10時31分 | ● 避難完了 ● 人員点呼 | ● 各学級ごとに整列し、静かに待つ。 | ● 校庭の危険がない場所へ避難誘導 |
| 10時32分 | 津波警報発令 | ● 教職員の避難指示に従い、体育館への避難開始 | ● 副校長は、津波の危険性を鑑み、体育館への二次避難を指示する。 |
| 10時33分 | ● 体育館への避難開始 | ● 二次避難 ・□年(校舎東側階段) ・□年(校舎東側外階段) ・□年(校舎中央階段) | ● 体育館(3階)への避難 (避難場所、ルートを確認に伝える。) |
| 10時35分 | ● 人員点呼 ● 避難完了 | ● 各学級ごとに整列し、静かに待つ。 | ● 人員報告、負傷者の有無の確認 |
| 10時40分 | ● 講評 | | ● 訓練全般の講評(校長) |

※ 「校長は出張中で不在」という設定にする。校長は、全体の動きや発災に伴う対応の様子について確認し、講評の中で、時間経過に伴う発災型の避難訓練で見られた成果と課題について述べる。

※ 消防署員や警察署員からの指導・助言を得て、次の訓練の改善につなげることが望ましい。